

(別紙様式3)

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 119

学校名 愛知県立安城南高等学校

校長氏名 加藤 真理子

研究責任者職・氏名	教諭・岡田一菜	事務担当者職・氏名	事務長・小瀧智津子
研究テーマ	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の充実とICTの活用		
本年度の研究目標	(1)多様な進路希望を持つ本校の生徒に対して、今後の社会で求められる能力という観点から、「主体的・対話的で深い学び」とは何かを、各教員が担当教科・分掌・特別活動などの立場から考える。 (2)ICTの授業での活用を推進しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に効果的な手法を模索する。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容		備 考 (対象生徒等)
令和4年度			
5月13日	CASIO ClassPad 教員向け講習会		
6月上旬	第1回校内授業研修週間(5/23～6/3)		
6月下旬	第1回授業アンケート(生徒・教員)		
7月25日	第1回連絡協議会参加 第1回校内推進委員会(書面開催)		
10月21日	桜林小学校 研究授業参観		
11月4日	校内公開授業・研究協議		
11月上旬	第2回校内授業研修週間(11/7～11/18) 第2回授業アンケート(生徒・教員)		
11月11日	主管校(知立東高校)・公開授業・研究協議 参加		
11月15日	碧南高校 公開授業 参観		
12月下旬	「主体的・対話的で深い学び」教員アンケート ICT 機器利用生徒アンケート		
令和5年			
1月16日	主管校(知立東高校)にて講演会及び連絡協議会 参加		
1月19日	3年5組「アルゴリズムとプログラム」の学年末考査にてCBTの実施		
2月16日	第3回現職研修(今年度研究報告)		

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 「主体的・対話的で深い学び」の実践の取り組み

(1) 校内授業研修週間授業

ア 実施日程

第1回・令和4年5月23日～6月3日

第2回・令和4年11月7日～11月18日

研究授業

- ・ 5月26日(木) 3限 3年7組 現代社会 地歴・公民科 高橋尚子
- ・ 6月1日(水) 3限 3年5組 表現メディアの編集とその表現 情報科 森下泰治
- ・ 6月2日(木) 4限 1年1組 情報Ⅰ 情報科 大島嘉一
- ・ 6月2日(木) 5限 3年5組 現代文B 国語科 濱田杏奈
- ・ 11月4日(金) 5限 2年4組 情報の科学 情報科 岡田一菜
- ・ 11月4日(金) 6限 3年6組 数学Ⅱ 数学科 今井雄一郎
- ・ 11月7日(月) 7限 1年7,8組 数学Ⅰ 数学科 鈴木峻矢
- ・ 11月8日(火) 2限 1年1,6,7組 体育 体育科 関本聖也
- ・ 11月18日(金) 4限 2年8組 コミュニケーション英語Ⅱ 英語科 鳥居美由紀
- ・ 11月17日(木) 2限 2年7組 生物 理科 佐藤紗智子

イ 取り組みのポイント

校内授業研修週間の本年度の実施のポイントを、「主体的・対話的で深い学びの得られるICTツールを活用した授業」とした取り組みを行った。

前期については、昨年度から継続して授業研究をおこなっている教員が中心となり、実践が見られた。後期は、9月より全校生徒にタブレットが配布されたことにより、情報活用コースの2年、3年以外のクラスでの実践が多く実施された。また、一部の教室の黒板をホワイトボード化し、各教員にチョークケースと同じようにホワイトボードマーカー4色セットを配付するなど、教員がよりICT機器を使いやすいよう環境整備も行った。

ウ 今後の課題

情報科の教員が率先してICT機器及びツールの活用を実践しているが、「情報科だからICTの活用ができる」と思われがちで、学校全体の士気が高まっていないように見える。「主体的・対話的で深い学び」の実践をするにあたっては必ずしもICT機器やツールが必須ではないはずなので、今後も各教科にて研究を進める必要がある。

(2) 校内公開授業・研究協議

ア 実施日程

- ・ 11月4日(金)5限 2年4組 情報の科学 情報科 岡田一菜
- ・ 11月4日(金)6限 3年6組 数学Ⅱ 数学科 今井雄一郎

イ 助言者

- ・ 愛知県立知立東高等学校 教頭 大澤瑞夫先生
- ・ 愛知県立知立東高等学校 教諭 山口 実先生

ウ 授業の概要

- ・ 数学科 今井雄一郎 3年6組・数学Ⅱ演習『場合の数と確率』

Google Jamboard を用いた解法の共有、Microsoft Whiteboard を利用した板書の提示

・情報科 岡田一菜 2年4組・情報の科学『データベースの利用』

「身近なECサイトのデータベースを考える」3/3回目。CasioClassPadを利用しグループの意見を共有、評価のためにループリックを提示した。

エ 研究協議の概要

使用する ICT ツールの選び方と授業計画次第ではプロジェクターやホワイトボードを利用しないことも可能である。生徒はタブレット現役世代で、上手に使いこなせているが、使用目的が「授業に参加させるため」では高い買い物になっていないか、ICT ツールだからこそ時間外でも確認できるのではないか、思考の共有ができるようにならないか、対話が成功するためには話す側だけでなく、聞く側の姿勢も大切である、といった話題が出た。

(3) 教員の授業アンケート

ア 実施日程

第1回・令和4年5月23日～6月3日

イ 今年度、特に授業で工夫していること(一部抜粋)

- ・google classroomを活用し始めてみた。
- ・1年生の授業で、毎時前回の授業内容の小テストを行い、その振り返りをさせている。考査返却時に、考査までの取り組みや小テスト結果推移の振り返りをさせている。今は紙媒体で行っているが、タブレットが配布されたら、クラスルームやフォームを使って振り返りをさせたい。
- ・Googleフォームを使用して、振り返りシートを記入させています。
- ・プロジェクターの利用に似た板書
- ・生徒にスマホを使用させて言語活動をさせている。
- ・生徒が活動する場面を設定して、主体的に参加しやすい授業を心がけている。

ウ 学習指導で困っていること(一部抜粋)

- ・各家庭のネットワーク状況がわからないので、クラスルームなどで課題を出していいか迷っている。
- ・機会があれば、演示を見せて興味を持たせようとするが、こちらが期待するほどには興味を示してくれないところが悲しい。中には喜んでくれる生徒がいることが救い。
- ・主体的に学習に取り組む態度の評価が難しい。自己評価の推移や振り返りから判断したいと思っていたが、自己評価の尺度は個人によっても違い、教員からの評価とは必ずしも一致しない。何を根拠に「学習を調節している」と評価するのか・・・
- ・プロジェクターの設置・片付け
- ・観点別評価、評価・評定の付け方が明確にならずに困っている。

(4) 「主体的・対話的で深い学び」教員アンケート(令和4年12月末～令和5年1月末 実施)

ア アンケート結果(回答率 25%)

問① 担当教科を選択してください(回答多数順)

- ・理科 21.4% ・国語、数学、英語、情報 14.3%
- ・地歴・公民、保健体育、芸術 7.1%

問② 本年度、授業内において、生徒の1人1台タブレットを使いましたか。

- ・はい 78.6% ・いいえ 21.4%

問③ 本年度、生徒が主体的に対話し、活動するような授業を行いましたか。

- ・はい 100%

問④ 主体的に対話をする活動を行う授業について、現在課題だと思われることをお書きください。

- ・知識が無ければ、主体的に行動を開始できないため、知識がどうしても不足する。
- ・グループワークで課題を作成する際にグループ内の進路によって手持無沙汰な生徒が出てしまうこと。
- ・生徒間でのレベル差が大きすぎる

- ・タイピング速度の差が大きい
- ・ネットリテラシーが身につけていない（自分の意見ではなく、ネットからコピペしてくる）
- ・タブレットを使用して情報収集し、生徒や教員と対話しながら実験記録の提出やプレゼンテーションを実施してみたが、やった感しかない。共通テストや入試で点が取れるようにはならない。
- ・生徒一人ひとりの主体性を評価する方法。
- ・時間を取り生徒に考えさせたり相談する時間を多くしているが、進度が遅くなること。
- ・教員側のスキルアップ
- ・生徒が話し合いをしやすいような発問を考えること
- ・主体的に対話する授業に消極的な生徒に対して、どのようにアプローチするか。
- ・短時間であれば問題ないが、コロナ禍での対面による対話活動がやりにくい状況への対応。

問⑤ 前問の課題をクリアするための方策があればお書きください。

- ・自主的に知識を習得できるように、自宅でも学習が出来るように教材などを整備する。
- ・毎時間こちらでしっかりと課題を作成し、提示することと、グループワークの最初に生徒間で計画をしっかりと作らせること。また、全体に対してブラッシュアップをするように声掛けをすること。
- ・中学校までの基本的な知識や計算力を補填する。
- ・IC 機器の使用方法（まだまだ苦手な人がいるので段階的に）についての現職研修の定期的実施。
- ・資料の調べ方・引用の仕方を丁寧に教えなくてはいけない（現代の国語で指導）
- ・何か ICT とか使って楽しかった授業で良しとし、共通テストや入試で点数を取らせることを諦めれば解決すると思う。主体的な対話で大学に合格できるような入試制度になる。
- ・黒板には黒板の良さもある。融合させたい。
- ・レポートを作成するのが一つの方法だと思いますが、毎回実施するのも困難が伴う。

イ まとめ・考察

回答いただいた教員は、積極的に主体的・対話的で深い学びの授業実践をしている。またタブレット端末についても積極的に利用しようとしている。本来のこの研究事業については、ICT 機器やツールの利用が目的ではなく、『主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善』が第一目的であることを考えると、教員が意識を変え、授業改善に取り組んでおり、目標は大いに達成している。

第二の目的である、『主体的・対話的で深い学びをICTツールを利用した実践』という意味では、1日2日で成果が表れるようなものではないため、芳しい成果を図るには時間が短すぎるのではないかと考える。また、教員側の課題設定や評価についてまだまだ習練中という状態である。

2 次年度に向けて

授業改善と新課程のスタートにあたり、評価方法について課題に感じている教員が多い。ICT ツールの研修に加え、主体的・対話的で深い学びが実感できる研修や評価方法についての研修の必要性を感じる。研修が一時的なものにならないよう、職員室内で授業改善や評価に向けた相談等が行われるようになってきた。教科内に収まらず、評価についての研究を進めていく必要がある。

また、配付されたタブレット端末や導入している有料ツールを適切に利用し、生徒の学力・能力を個別最適に伸ばせるような授業づくりや評価を今後も研究する必要がある。生徒の主体的な学びのためには、その基礎となる学びの定着や、生徒自身が何のために何を学ぶのか、生徒自身の生涯を通じた学習の動機や目的など、キャリアデザイン、進路指導ともつなげ、生徒一人一人を育てるという視点でさらに授業改善を進めていく必要もあるだろう。

